



## 『低コスト造林』へ向け 「コンテナ苗」に関する意見交換を開催

「コンテナ苗に関する意見交換会」に参加した各機関の関係者＝グランメッセ熊本

意見交換会に先だって、森林総合研究所研究管理課実験林室

です。意見交換会に先だって、森林総合研究所研究管理課実験林室

6月30日、グランメッセ熊本で、「コンテナ苗に関する意見交換会」を九州各県の林務担当者や樹苗生産組合、林業経営者、森林総合研究所、林木育種センター九州育種場、林野庁、九州森林管理局・署の職員など約110人が出席し開きました。当局では、今年度から、「低コスト造林」の一環としてコンテナ苗の植栽に取り組むことにしています。

コンテナ苗は、①季節を問わずに植え付けが出来る②植え付け後の活着や初期成長がよい③植え付けが簡単などの特徴があります。このことを森林総合研究所と連携して、植え付け後の活着率や初期成長量、植付工期などを調査し、従来実施している裸苗と比較・検証を行い、得られたデータは、民間林業関係者などへ公表して民有林への普及を勧めていくこととしています。コンテナ苗については、今年度12万本の生産が予定されているものの、実証されたものがない未知の状況下であり、今回、意見交換会を開催したものです。

コンテナ苗は、①季節を問わずに植え付けが出来る②植え付け後の活着や初期成長がよい③植え付けが簡単などの特徴があります。このことを森林総合研究所と連携して、植え付け後の活着率や初期成長量、植付工期などを調査し、従来実施している裸苗と比較・検証を行い、得られたデータは、民間林業関係者などへ公表して民有林への普及を勧めていくこととしています。コンテナ苗については、今年度12万本の生産が予定されているものの、実証されたものがない未知の状況下であり、今回、意見交換会を開催したものです。

の落合幸仁室長から「コンテナ苗の育苗方法」の解説について、林木育種センター九州育種場の福島雅喜場長から「低コスト造林の取組」について、苗木生産者から、長倉樹苗園の長倉良守氏が昨年10月から実施している「コンテナ苗の試験栽培の状況」について発表いただきました。意見交換会では、各県の樹苗組合から、コンテナ苗生産の取組状況の報告や裸苗と別にコンテナ苗の規格設定を希望する意見があり、林業事業者からは、造林でのコスト削減が出来るなかったがこのコンテナ苗に希望を見いだせるとの意見もあって、コンテナ苗を活用した「低コスト造林」の確立に向けて期待する意見が多く、予定時間をオーバーし終了しました。

(担当＝森林整備課)



意見交換会で意見を述べる関係者

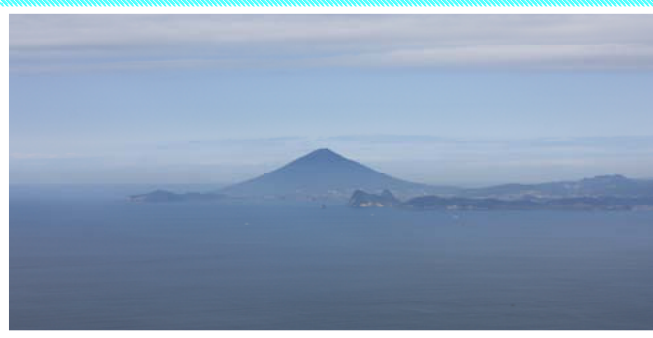


大隅森林管理署  
根占森林事務所

森林官 野田 誠治

大隅森林管理署は宮崎県と鹿児島県霧島市に隣接する大隅半島一円を管理しています。

大隅半島の名山といえ、桜島や大笠柄岳(おおのがらだけ)を主峰とする高隈山、森林生態系保護地域に指定されている稲尾岳を思い浮かべられる方が多いかと思いますが、今回、隠れた名山として地元の方々や登山家



辻岳山頂から望む！雲海に浮かぶ開聞岳

## 『辻岳』標高773メートル 大隅半島の隠れた名山

に親しまれている「辻岳(つじだけ)」を紹介します。

「辻岳」(標高773メートル)は、日本本土最南端の地である佐多岬や黄金色の砂浜で有名なゴードビーチ大浜などがある南大隅町に位置し、西側一帯は「霧島屋久国立公園」に指定されています。

辻岳を南東から眺めるとなかなか丘陵に見えますが、錦江湾に面した西側の海岸からは垂直にそそり立つ三角錐に見え、

直にそそり立つ三角錐に見える「根占富士」とも呼ばれ、人気のある山です。

登山コースは複数ありますが、山頂まで約20分と、誰もが気軽に登山ができる「林道根占中央線の東口登山コース」をおすすめします。

山頂付近は、360度開けており、眼下には南大隅町の田園風景や町並みが、北方に高隈山系と桜島、遠くには霧島連山、

南西方向に目を移せば雲海に浮かぶ開聞岳が絶景です。ちょっと南へ角度を変えると、屋久島や種子島が洋上に浮かぶ、まさしく大パノラマを鑑賞できます。

また、森林生態系保全を目的に設定した「大隅半島緑の回廊」を広範囲に遠望できる数少ないポイントでもあります。

登山コース付近は、巨岩とともにサタツツジが群生しており、春には綺麗な花が咲き誇り登山者の目を楽しませ疲れを癒してくれます。山頂の近くには登山後の休憩所や展望所として利用されているパノラマパーク西原

台もあり、小さな子どもさんが一緒でもお手軽に登山を楽しめますので、佐多岬へのドライブの帰りにちょっと登山を計画してみたいかがでしょうか？

(経路) 国道269号↓南大隅役場↓県道563号↓出口バス停右折↓林道根占中央線

### 皆川 芳嗣

### 林野庁長官が交替



年齢 56歳  
出身地 福島県

昭和53年4月 農林省入省

平成5年9月 大臣官房総務課調査官

平成6年5月 大臣官房企画室上席企画官

平成7年7月 食糧庁長官官房総務課調査官

平成7年11月 食糧庁総務部総務課調査官

平成9年1月 農産園芸局企画課長

平成12年1月 構造改善局農政部管理課長

平成13年1月 農村振興局計画課長

平成14年1月 農土地改良企画課長

平成15年1月 大臣官房企画評価課長

平成16年7月 大臣官房審議官兼生産局

平成17年12月 大臣官房政策評価審議官兼生産局兼経営局

平成18年1月 総合食料局食糧部長

平成19年7月 林野庁次長

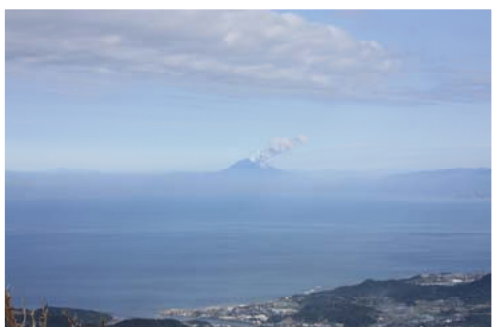
平成20年7月 農村振興局次長

平成21年7月 関東農政局長

平成22年7月 林野庁長官

7月30日付けで、島田泰介前長官が異動し、皆川芳嗣新長官が就任しました。

◇  
◇  
◇  
新長官の略歴は次のとおりです。



辻岳山頂から、遠く桜島を望む



辻岳登山道山頂付近のサタツツジ

## 祖父母らと林業体験

【大分西部林管理署】大分県宇佐市安心院町の中州国有林内で、同市立深見小学校福貴野分校の児童5人が祖父母たちと下刈作業を体験しました。当地は平成20年～21年に自らが植え付けを行った箇所。児童らは長く伸びた力やに苦勞しながらも、自分の背丈を超えるまでに成長した樹木に愛着を持って丁寧に刈り払いを行っていました。その後児童らは、樹木のスケッチをしたり、木の高さや葉の枚数を調べるなど樹木観察を楽しみ



作業を終えた福貴野分校の皆さん＝大分西部

ました。当活動は継続して実施することとしています。

## クリーン活動に60人

【長崎森林管理署】7月22日、長浦森林事務所管内の「ながさき県民の森」周辺において、ゴミ不法投棄禁止の看板設置と周辺のクリーン活動を行いました。同活動には、地元自治会や各種むらおこし団体などで構成するいやしの里山懇談会、地元の神浦小学校児童など約60人が参加。児童らが考えた標語の看板を県道沿い10箇所を設置。ゴミは、空き缶や古タイヤなど軽トラツクいっぱいとなりました。今後同活動を通じ、マナーや意識



手作り標語の看板を前にする児童ら＝長崎

の高揚の取り組みを進めていくことにしています。

## 「遊々の森」森開き

【佐賀森林管理署】7月31日、佐賀市の国有林にある遊々の森、「夢みるこども基金の森」で森開き行われ、夢みるこども基金が全国から募集した絵や作文のコンクールで入選した小中学生15人と保護者、関係者ら50人が参加しました。はじめにこどもたちは「同基金の森」の看板を設置。その後、場所を移し、当署職員による森林教室に耳を傾けました。同教室では、森林が二酸化炭素を固定することや緑のダムの働きをしていることなどクイズ形式により実施。参加者は楽しい時間を共有しました。後日、「森の中で小川のせせらぎや鳥やセミの声をきいてたくさんさんの自然を感じました」などの便りが寄せられました。

### 「森林環境教育」で体験活動の重要性を学ぶ

次代を担う子どもたちが自立した存在として育つために、青少年に対する体験活動の重要性がますます高まる中、平成20年3月に公示された学習指導要領においても、「体験活動の充実」が盛り込まれています。

こうした背景には、今日のグローバル化や情報化等が創造を超えるスピードで進み、社会が急速に姿を変えたことがあげら

これからの社会の変化は、人間関係の希薄化、家庭や地域社会における教育力の低下等、さまざまな問題を引き起こしており、青少年にも大きな影響を与え、基本的な生活習慣の欠如や学習意欲の低下等が指摘されています。

こうした中で、多様性に富み豊かな森林環境を有する国有林野は活動の場として注目されており、それらの活動の場としてふさわしい森林環境を活用することは、現代に生きる子どもた



熊本市立金峰山自然の家

### 所長 小山 剛正さん

「感謝」の気持ちを養い集団生活の必要性を学んでもらっています。

また、親子キャンプなども実施し、日常生活の中で味わうことのできない自然の中でのさまざまな体験活動を通して、

この課題を解決する一助になると考えます。

熊本市立金峰山少年の家では、昭和50年から熊本市内で小学5年生になると、全員が2泊3日で宿泊体験を通して「規律」、「共同」、「友愛」、「奉仕」、



「夢みるこども基金の森」看板前で＝佐賀

## 間伐紙『木になる紙』が くまもとソーシャルバンク大賞受賞

7月24日、くまもと県民交流会館パレアにおいて、NPOバンク「くまもとソーシャルバンク」主催のシンポジウム「こんなお金を使い方―小さく回すと地域が変わる―」が開かれました。くまもとソーシャルバンクは2008年に発足。今回、支援活動の一環として、社会貢献活動などに取り組んでいる団体や事業の表彰制度を創設、「国民が支える森林づくり運動」推進協議会が企画した間伐紙「木になる紙」の取り組みが、初にくまもとソーシャルバンク大賞を受賞しました。



くまもとソーシャルバンク大賞を受賞

シンポジウムの中で、高塚慎司前企画調整室長が、間伐紙「木になる紙」の取り組みを紹介しました。パネルディスカッションでは、「紙だけでなく、自然を破壊して作られたさまざまな商品は生き残れなくなる。安いことが良いという考え方が浸透しているが、消費者に商品の背景が伝われば、価格だけで

はないところでも人は動く。相互扶助、信頼関係の中で小さくお金を回すことで地域が豊かになる」などの意見が出されました。最後に、「国民が支える森林づくり」運動推進協議会に対し表彰状の授与が行われ終了しました。

### 扇尾小学校へ出前講座

【鹿児島森林管理署】当署では森林の働きや役割について学び、関心を深めてもらうことを目的に毎年出前講座を行っています。

今回は、鹿児島県日置市立扇尾小学校の1～5年生2人を対象に森林教室を行いました。児童たちには、自然の中で遊びながら、自然の中で楽しさを見つけてもらおうと、ドングリや木を使ったおもちゃを用いたり、校庭ではカエデやマツの種子が落下する様子など、植物の種子が運ばれる仕組みについて学びました。児童らは興味深く耳を傾け、森林の生長には自然や動物が大きく関わっていることに驚いた様子でした。



興味深く説明を聞く児童＝鹿児島



浜田鉦次さん

平成22年度のモニターになりました浜田と申します。身近に起こった口蹄疫について述べたいと思います。宮崎県に於ける口蹄疫の最初の発生は、平成22年4月20日都農町で発生し、初動体制の遅れ

から、感染が広がり、家畜の殺処分頭数は276419頭なり、6月30日に全ての殺処分を終えました。

その間、5月18日に、県は、非常事態宣言を発しました。非常事態宣言には、①不要不急の外

## 口蹄疫に思う

②車両  
③イベント、大会、集会などは当面延期するとなっています。このため、各公共施設の使用の閉鎖や、イベントの中止、夏の甲子園の選抜高校野球宮崎大会は無観客試合で行うなど、口蹄疫の発生は、大きな社会的な事

変、事件であることを実感しております。

今回の初動体制の遅れについては家畜の殺処分と埋却であると思えます。これらの対策として、牛の殺処分に對する補償制度の制度化や、埋却に對する自

衛隊の早期派遣と早期実施が必要であると思えます。異常家畜の発見と通報に関するデータはデジタルカメラや電子メールを利用して情報の早期伝達が出来ます。また、家畜の殺処分や埋却については、24時間以内の殺処分

や72時間以内の埋却の完了が定められています。

今後は、このような国による口蹄疫防疫措置実施マニュアルなどは一つの地域だけではなく、日本全国に適用出来、且つ世界の見本となるよう、実効的な策定が強く求められます。

口蹄疫の宮崎県全体の解除は、7月27日の予定となっておりますが問題は、今までの反省と今後の対策であると考えています。最後に口蹄疫に被災された宮崎県畜産農家の方々に対して、お見舞いを申し上げます。一日も早い復興を祈念します。

(宮崎県宮崎市在住)

# 人 の う ら ぎ

8月1日付林野庁長官発令

企画調整室長

城風人(林野庁森林整備部)

研究・保全課)

企画調整室監査官(都城支署駐

在)

立辺記(宮崎北部署次長)

宮崎北部署次長

矢島欣也(国有林野管理課)

林野庁計画課課長補佐(流域管

理班担当)

高塚慎司(企画調整室長)

8月1日付森林管理局長発令

国有林野管理課課長補佐

廣田忠善(林野庁)

指導普及課自然再生指導官

山下憲明(北薩署)

北薩署流域管理調整官

坂之上勸太(大隅署)

大隅署流域管理調整官

田上正文(指導普及課)

西都児湯署森林官

廣田俊之(北薩署)

宮崎署森林官

氏橋亮介(指導普及課)

宮崎署森林官

谷山亜紀子(西都児湯署)

宮崎署都城支署森林官

高島唯(企画調整室)

宮崎署都城支署森林官

藤井武史(宮崎署)

北薩署森林官

飯屋信一(宮崎署都城支署)

熊本南部署課付

森津積(熊本南部署)

関東局出向

河村健(宮崎署)

## 親子で間伐に挑戦

【大分森林管理署】大分県由布市の蛇越岳国有林内の「ふれあいの森」で日本自動車連盟大分支部と共催で、森林ふれあいイベントを開催。紙芝居などで森林の役割などを学んだ参加者29人は、間伐を体験しました。体験では懸命に鋸を引く親子や



間伐に挑戦する親子=大分

木が倒れると歓声を上げる親子などほとんどが初めてで貴重な体験となりました。

## 児童ら体験林業に挑戦

【熊本森林管理署】7月9日熊本市立金峰山少年自然の家から要請を受け、同市立託麻東小学校5年生110人に森林教室を



枝打ちに挑戦する児童=熊本

実施。児童らは18班に分かれ、保育間伐や枝打ち作業に挑戦。午後からは、本立てなどの木工体験と丸太切りを行いました。児童たちからは、「木を切るのが難しかった」などの声が聞かれ、作業の大変さや木の暖かみを肌で実感していたようでした。



高校生の時に北アルプスに登って以来、登山を続けている。日本百名山は全く意識していないが、この原稿を書くに当たって改めて数えてみたところ、これまでに65峰に登っている。

間もなく53歳になるが、未だに、長い場合で一週間くらいテントや食糧等20き前後の荷物を担いで登る。なぜ楽に登れる山

## 「約束」

小屋泊まりでないかと言っと、テントは自由気ままという点もあるが、それよりも、テントで行って何があっても山小屋には逃げ込まないなら自由に登山をしてよいという妻との約束がある

ためである。妻曰く、「テントが担げないのは体力が無くなつた証拠。安全のため登山は止めるべき。山小屋に助けを求めるのは、天候の判断ミスか食糧計

画がずさんなためで、全てあなたの責任」。確かにその通りで、反論の余地もないのできちんと守っている。

実はもう一つ約束がある。それは「落ちるときはスパッと下まで」。途中で

引っかかるとヘリコプターでの回収が難しくなるからで、これもその通りだが、こちらは守りたくない約束である。(大分森林管理署長 長江恭博)

## 鹿児島大学の学生へ研修

【鹿児島森林管理署】7月16日、鹿児島大学の依頼を受け、

農学部生物環境学科森林管理学コースの学生30人を桜島地区民有林直轄治山事業個所に迎え研修を行いました。学生からは、普段見ることの出来ない桜島の迫力ある光景に驚嘆の声が聞かれました。研修は国有林の現状、治山事業の意義、民有林直轄治山事業の概要など、多岐にわたる説明。国有林志望の学生も居たこともあり、真剣さがひしひしと伝わってきて、有意義な研修となりました。



説明を聞く鹿大生=鹿児島

◇長い間で苦労  
さまざまでした◇

◇定員内職員◇

7月31日付林野庁長官発令  
三城法博(企画調整室)

実践講座  
第2回公開

「絵手紙」作りに挑戦  
色とりどりの作品が完成

7月18日、監物台樹木園みどりの交流館で第2回実践・公開講座「絵手紙」を開催。26人の受講がありました。

はじめに、講師の松野親人さん（九州森林インストラクター会）が「絵手紙は、対象を小さく描くよりも葉書からはみ出すぐらいに描くと、見えない部分で想像をかき立てます。題材をよく観察して自分で色を作って描いて下さい」とアドバイス。

受講者は、用意された夏野菜や花、ホオズキなど、色とりどりの素材の中から題材を選んで、数枚の作品を完成させました。受講者の自信作を一つ一つ額



講師の松野さんの説明を聞く受講生

に入れ、講師の松野さんから講評を頂きました。

受講者からは、「何十年ぶりに筆を握って楽しい時間を過ごせた。家庭菜園の野菜を描いてみたい。」などの感想が寄せられ、無事に終了しました。  
(担当II指導普及課)



山の谷間に普通な落葉高木で、誰でも知っている紅葉の代表格です。あなたはこの木をなんと呼んでいますか。図鑑を調べると\*牧野図鑑タカオモミジ\*保育社タカオカエデ\*山と溪谷社イロハモミジ\*熊本県植物誌イロハモミジ\*大分県植物誌イロハモミジ\*森林家必携イロハモミジとなっています。私は牧野・保育社図鑑に使われている「タカオ」の名を利用していただきます。  
2つの県の植物誌、森林家必携に使われているイロハモミジは、

「遊々の森」協定締結

【大分西部森林管理署】NPO法人おおいの環境保全フオーラムと「猪ノ瀬戸・遊々の森」の協定を締結しました。設定区域は、猪の瀬戸湿原の上流に位置する標高750以上のスギ・ヒノキの人工林と広葉樹の天然林14・5鈔。はじめに森勇二署長がとあいさつ。同団体は、国有林をフィールドとした自然観察や林業体験などを通じて、森林の役割など、多くの子供たちな



協定書に調印する森署長＝大分西部

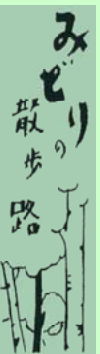
どに広めることとしています。

35 タカオカエデ（カエデ科）

以前は使用頻度が多かったようです。  
タカオカエデは京都の高尾山（紅葉の名所）に多かったことから付けられた名前です。カエデは葉の形から「カエルデ」が「カエデ」に変化した名前です。ちなみに「モミジ」とは、「紅葉」と書き、赤、黄、茶色に変化する山全体の紅葉を意味し、カエデに特化したものではありません。カエデ科の花について調べると雌雄異株、雌雄雑居と変化に富んでいます。



樹木園のあちこちに植えられ、薄くて小さい葉を幹一杯に付け



先日、あるお宅に訪問した際「阿蘇には有名な夏の花がありますよね。是非行ってみたいんです。どこに咲いていますか？」と尋ねられた。数日前の新聞に、雲海に浮かぶ阿蘇の涅槃像と共に掲載された花の写真を思い出した。黄色いユリ科の多年草「ユウスゲ」のことである▼ひとときの何気ない会話ではあるが、書いた記者からすれば自分の記事が読者の心に残り、その場へと人を動かすのである。まさに記者冥利に尽きるのでは▼国有林モニターの皆様から頂戴したアンケートがまとまった。国有林の情報をもっと読者に關心を持たれやすい形にする手法など読者目線が並ぶ。「活動を県毎にまとめて」等我々の気づかない貴重でありがたいご意見の数々である▼ご意見を活用して前出の記者のように人を感動させ、人を森林へ動かせれば広報冥利に尽きるのですが・・・▼夕方から花が咲き、葉がカヤツリグサ科・スゲ属に似ていることからその名がついた「ユウスゲ」。花言葉は人に感銘を与えるさま「麗しき姿」とある。  
(た)